

令和8年度 第1回周南市立図書館協議会 議事録

【日 時】 令和8年7月3日（金）14時～15時20分

【場 所】 周南市立中央図書館 3階集会室

【出席者】 《協議会委員・出席 11名》

西富 顕 委員	中原 恵子 委員	國重 義久 委員
前田 富士子 委員	柴田 真理子 委員	福岡 宏子 委員
永野 節子 委員	橋本 喜代太 委員	重岡 直子 委員
田中 誠 委員	吉田 智子 委員	

《事務局9名》

【傍聴者】 0名

【議 事】

1. 開会（14時）

2. 委員自己紹介・事務局紹介

3. 協議会成立宣言

委員12名中11名の出席により、会議の成立を宣言

4. 議題

（1）周南市立図書館協議会委員長・副委員長の選出

委員長・橋本委員、副委員長・西富委員をそれぞれ選出・承認

（2）令和7年度周南市立図書館事業報告

「配付資料」及び「令和7年度周南市立図書館年報（抜粋）」に基づき、事務局が説明〔各図書館の資料数、来館者数、図書館統計指数、蔵書数及び受入・除籍の実績等〕

（質疑等）

委 員：電子図書館の周知活動について。職場の同僚2人に聞いてみたところ、2人とも電子図書館の存在自体を「知らなかった」と言っていた。周知はどのように行っているか。先日のやまびこ号の披露イベントの際にQRコードを掲示して登録のPRをするような取組みはされているのか。

事務局：周知については、昨年度初めて電子図書館の使い方講座などを実施した。本年度も継続したいと考えている。イベント等の機会を捉えたPRも工夫したい。

委員：周南公立大学との連携について。実績を見ると中央図書館と駅前図書館の2館だけである。地理的条件が良くて声を掛けやすいのは分かるが、新南陽から中央に来るのは大変だし、熊毛や鹿野など遠方の館まではなかなか届いていない。参加したくても参加できない子どもたちがいる。他館でもおはなし会や折り紙、宿題お助け隊などいろいろやっているの、年に1回でもいいので、他の館にも大学連携の機会を広げられないか。

事務局：昨年末から、周南公立大学の図書館へ市立図書館の本を展示する取組みを進めている。中央だけでなく、各館の司書が地域性に応じた本を選書し、大学図書館で展示・貸出を行うもの。まずは学生に、市内に6館の図書館があることをPRしたいという思いがあるので、学生の反応を見つつ、各館のイベント等にも参加してもらえようという工夫を投げかけてみたい。

委員長：現在、本学の学生は、ボランティアとして図書館だけでなく市内のさまざまな事業に参加している。ただ、学生の大半が大学近辺に下宿しているか遠方から通学しているため、大学から離れた地区だと学生が参加しにくいという事情もある。もちろん熊毛や鹿野方面から通う学生もいるので、大学としても興味をもつ学生を掘り起こしていきたい。

(3) 令和8年度事業概要

「配付資料」に基づき、事務局が説明〔基本方針、事業費別の事業概要〕

(質疑等)

委員：図書館として予定している読書活動推進の具体的な事業(講演会、おはなし会、学校連携など)のスケジュールは、どこで確認すればよいのか。

事務局：今回の資料には事業予定表を添えていない。普段は、ホームページや地区のチラシ等でお知らせしているが、本協議会であらかじめお示しできるよう加えたい。

委員：資料に関連してもっと早めに送っていただけたら、統計や前回のデータと比較して色々検討できたが、直前の送付で十分な確認ができなかった。事前に読み込む時間があれば、この短い会議時間でもより実のある質疑ができる。できるだけ早めの送付をお願いしたい。

事務局：昨年度も同様のご意見をいただき、資料提出の前倒しに努めたが、直前までのデータ調整などで、このような結果となった。開催時期との兼ね合いもあるが、可能な限り早く提示できるよう努める。

委員長：本学でも同様の事情があるが、直前まで内容を修正・確認しようとする結果的にぎりぎりになってしまうという現実もある。ぜひ図書館側としても真摯に受け止め、早めの準備をお願いしたい。

委員：事業概要の資料が昨年度と全く同じものだった。今年度「これを重点的に頑張る」というポイントが知りたい。それが年度末に効果があったかを検証したい。口頭で構わないので、館長から今年度の重点ポイントを教えてほしい。

中央館：隣接建物を解体して駐車場を整備するという大規模プロジェクトに着手する。また、子ども向け行事や周南公立大学との連携強化を定例行事の中で見直す。

新南陽館：子どもに喜ばれる場所づくりとして『おはなしの部屋』の隣のスペースに、人工芝を敷き、親子で楽しめる空間づくりを進める。

福川館：福川館はふれあいセンター内にある非常に小さな館で、地元利用者がメイン。人口減少と高齢化の影響がダイレクトに出ており、これまで借りてくれた方が来られなくなるなど貸出冊数が減っている。新事業は難しいが、地元の皆様が末永く使える環境を維持する。

熊毛館：折り紙教室や読み聞かせイベントを継続して行う。他館で作ってもらったダンボールの楽しい教材・飾りを借りて設置したところ、子どもたちに大変好評で、展示が終わるとどこに行ったのかと涙ぐむお子さんもいた。

鹿野館：約半年間にわたり、空調設備の改修工事を行う。閉館が1カ月程度、工事期間が約3カ月となる。

駅前館：まちの広場として、2階の新幹線側から入ってくる「普段本を読まない方」へどうアピールできるかを考えている。また、利用の1割を占めるキッズ・保護者向けに体験型イベントを実施し、本への興味のきっかけ作りを行っている。

委員：市民や利用者からの日頃の声や「こうなったらいいな」という要望を、どのように吸い上げて運営に活かしているか教えてほしい。

中央館：市民の声については、窓口での直接対応・投書箱・メールで受けていて、毎月開催の館長会議や指定管理者との報告会で課題を共有し、解決策を協議している。

新南陽館：高齢者の方から「本棚の一番下の段がかがまないと取れなくて使いづらい」とメールでご意見をいただき、一番下の段に傾斜をつけて斜めに見えるよう改善したところ、大変喜んでいただいた。日々のメールや直接の声を貴重な改善の機会として対応している。

福川館：昨年度、書架を整理して閲覧スペースを広げたところ、自習中の学生さんや新聞を読むシニア層に活用していただけるようになった。

熊毛館：他館と連携しながら、子どもの笑顔が増える取組みをしっかりと進めていく。

鹿野館：スペースの関係で新規イベントは難しいが、夏休みの子ども向けイベント実施後は、司書と協力して企画展示の案内に力を入れ、貸出率の向上を図っている。

駅前館：日々のスタッフ間では、勤務後に「今日あったお声」を Web 上で共有・データベース化し、すぐ対応すべき案件に迅速に対応する取組みを行っている。

（４）第四次周南市子ども読書活動推進計画の進捗状況

「配付資料」に基づき、事務局が説明〔計画の理念、計画の基本概要、基本方針、市の読書環境と拠点、推進方策別の進捗状況、総括〕

(質疑等)

委員：資料の実績欄に「12学級以上のすべての学校に司書教諭を配置」と書かれているが、司書教諭の配置は学校図書館法で定められた義務であり当然のこと。私たちが確認したいのは、実務を担っている「学校図書館司書」や「指導員」の配置人数や現場の運用状況。また、目標数値として掲げられている「うちどくコンテスト」の応募件数の大幅な減少は、どうしてそうなったのか。

事務局：学校教育課とも打ち合わせを行っており、学校現場の司書が複数校を掛けもちしている実情や、図書室の空調設備の有無による勤務環境の格差なども直接確認した。教育部内のミーティングでも教育長を含めて共有しており、国の方針である特別教室(図書室を含む)への優先的な空調整備などを計画的に進めているところ。うちどくコンテストは、現状、参加者が少し減っている状況。15回目と継続しているが徐々に減っているので、私どもも待ちではまずいと感じている。学校長が集まる校長会や教員の図書館部会へPRに出向くよう計画している。

委員：案内文書や通知に「文書番号」や「図書館長名」の記載がなかった。図書館協議会は法律に基づく組織なので、公文書としての起案・決裁および保存年数の管理がどのようになっているか確認したい。

事務局：すべて公文書であるため、内部での決裁を経た上で文書番号を取得し、規定の保存年数に基づいて保存・管理している。皆様へお渡しする文書についても、公文書としての格調や正確性を期すため、次回以降は文書番号や館長名の表記について配慮する。

委員長：本日いただいた数多くの貴重な意見・提案を、今後の図書館運営やニーズの反映に役立てもらいたい。

(5) 意見交換・その他

事務局による事務連絡

5. 閉会（閉会15時20分）